

3 親愛南の里 事業報告（平成 29 年度）

1 経営方針に関わる概要

前年度に引き続き個別支援計画に基づいた、利用者個々に対応したきめ細かいサービスの提供に心がけた。また、利用者の状態やニーズに応じて個別支援計画の見直しを随時行い、3 か月ごとの支援説明会で確認し進めた。

(1) [施設の基本目標]

29 年度は前年度に引き続き、咀嚼・えん下機能の低下した利用者への食事提供形態として取り組んでいるソフト食の質の向上、入所利用者個々について摂食状況のアセスメント、嗜好調査を行い、咀嚼・えん下に関する事故の防止と生活の質の向上に繋げることができた。

生活介護事業については 4 月から法人内事業所から 3 名受け入れ、受け入れ枠を拡大した。

(2) [利用者]

平成 29 年度は施設入所支援在籍者 40 名、生活介護在籍者 43 名でスタートした。施設入所支援利用者は 3 名が退所、3 名が入所し、3 月末現在 40 名の在籍者となっている。生活介護利用者は 4 名が退所、6 名が入所し、3 月末現在 45 名の在籍者数となっている。

3 月末時点での施設入所支援における高齢在籍者の年齢構成は、60 歳未満は 22 名、60 歳台は 9 名、70 歳台は 5 名、80 歳台は 4 名。平均年齢は 57.9 歳となっている。

(3) [行事]

平成 29 年度は施設内行事 9 回、地域のイベント等に参加した行事を 8 回実施している。

旅行については、個々の希望に沿いながら 5 グループに分かれて東京スカイツリー、磯部ガーデン（群馬県）、山梨方面、サンリオピューロランド、秩父方面に行った。利用者の希望に沿った行先や内容で行い、利用者個々が楽しめる自己選択による外出の提供ができた。

(4) [活動]

昨年度に引き続き利用者の障がい特性、介助度等から 6 チームに分かれ日中活動を実施した。ケース担当をチーム分けしてケース検討することで、より利用者個々への理解が進み、ニーズに沿った支援を行うことができた。

また、29 年度は余暇支援の一環としてスヌーズレンの導入を開始した。外部研修や講師を呼んでの出前講座を行うなど職員の知識を修得した上で、試行的にスヌーズレン室と器具を整備し、実際に運用を開始している。

(5) [設備面]

竣工後 16 年が経過し、トイレや水回り、エアコンの経年劣化による不具合がでてきているため随時修繕を行ってきた。

1 階、2 階とも共用部分の壁紙の張り替え、2 階食堂、ホールについては照明器具の LED 化を行った。

その他厨房換気扇修繕、厨房休憩室エアコン入れ替え、エレベーターのロープ交換、1 階正面玄関ひさし枠部分の修繕を行った。

浴室については利用者の高齢化、重度化に伴い介助度が全体的に上がってきているため、現状に合った設備等に今後改修していくことが課題に挙げられている。

(6) [保健衛生面]

前年度に引き続き、特に利用者の健康面に配慮した支援を継続している。

1月上旬に1名のインフルエンザ感染者が発生。1月中には一度終息したが再度2月に入って順次17名がインフルエンザに感染した。

(7) [その他]

生活介護事業の年間平均利用率は104%、施設入所支援の年間利用率は92.8%であった。短期入所、日中一時支援に関しては、定期利用者の他、市町村や相談支援機関と連携し、緊急時の受入れ等積極的に地域のニーズに応えるよう取り組んだ。

2 利用者状況

(1) 入退所の状況（名）

事業別	性別	定員	28年度末現在 在在所者数	29年度中 入所者数	29年度中 退所者数	29年度末現在 在在所者数
(入所)	男	25	25	1	1	25
	女	15	15	2	2	15
	計	40	40	3	3	40
(生活介護)	男	25	27	3	1	29
	女	15	16	3	3	16
	計	40	43	6	4	45

(2) 入所前の状況（名）

生活区分 種別	ホーム	アパート	自宅	施設入所	その他	計
(入所)	0	0	1	0	2	3
日中区分 種別	就労	家事手伝	他の 支援施設	学校	その他	計
(入所)	0	0	3	0	0	3

(3) 退所の理由（名）

生活区分 種別	ホーム	アパート	自宅	施設入所	その他	計
(入所)	0	0	0	0	3	3
日中区分 種別	就労	家事手伝	他の 支援施設	親愛会 生活介護	その他	計
(入所)	0	0	0	0	3	3

(4) 障害支援区分 (名)

支援区分	施設入所支援			生活介護		
	男	女	計	男	女	計
区分6	20	6	26	22	6	28
区分5	5	7	12	6	7	13
区分4	0	2	2	1	3	4
区分3	0	0	0	0	0	0
区分2	0	0	0	0	0	0
区分1	0	0	0	0	0	0
合計	25	15	40	29	16	45

(5) 年齢構成 (名)

区分 種別	性別	20歳未 満	20歳以 上～30 歳未満	30歳以 上～40 歳未満	40歳以 上～50 歳未満	50歳以 上～60 歳未満	60歳以 上	平均(歳)
		入所	男	0	1	1	8	
	女	0	0	0	3	1	11	64.9
	計	0	1	1	11	9	18	57.9
生活介護	男	0	1	1	9	8	10	54.2
	女	0	0	0	3	2	11	64.0
	計	0	1	1	12	10	21	57.6

(6) 療育手帳・身体障害者手帳所持状況 (名)

[療育手帳]

区分 種別	性別	㊦	A	B	C	なし	計
		入所	男	14	11	0	
	女	4	9	1	1	0	15
	計	18	20	1	1	0	40
区分 種別	性別	㊦	A	B	C	なし	計
生活介護	男	14	13	2	0	0	29
	女	5	9	1	1	0	16
	計	19	22	3	1	0	45

[身体障害者手帳]

区分 種別	性別	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
		入所	男	0	4	0	0	
	女	0	0	0	2	0	0	2
	計	0	4	0	2	0	1	7

区分 種別	性別	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
生活介護	男	0	4	0	0	0	1	5
	女	0	0	0	2	0	0	2
	計	0	4	0	2	0	1	7

(7) 健康管理の状況

一人当たり概ね週三回のバイタルチェックの他、体調不良時は随時バイタルチェックを行った。

日々、排泄状況を確認し、状況により下剤調整を行うことで浣腸に頼らない排便コントロールができています。また、適宜、水分補給や日中活動を取り入れて自然排便を促している。

高齢・病弱化による転倒が増え、外科・整形外科・脳外科通院が増加している。また、免疫力低下により風邪症状が長引く傾向のため、内科通院が増加している。看護師2名体制で利用者の健康管理と通院を行っている。

通・入院回数（回）

区分	科目	精神科	内科	外科	眼科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	脳外科	歯科(訪問)	その他	計
		通院	102	126	39	7	20	8	10	9	1086	1
入院	件	4	11	4	0	3	2	1	0	0	0	25
	日	81	335	46	0	181	32	13	0	0	0	688

- ・昨年度に比べ歯科以外の総通院人数は53名増えた。
- ・入院件数が11件増加、総入院日数は27日減少した。

3 安全・安心の確保

(1) 防災・防火訓練

回	月日	訓練名	内容
1	6月29日	夜間想定訓練	通報・消火・避難訓練
2	9月22日	総合防災訓練	通報・消火・避難訓練・消防署立会
3	12月14日	夜間想定訓練	通報・消火・避難訓練
4	3月29日	夜間想定訓練	通報・消火・避難訓練

※9月に消防署へ依頼して、避難訓練の指導とAED、消火器の使用についての指導を受けた。

4 利用者支援

(1) 日中支援の実施状況

利用者個々の要望・課題を整理、分析し、個別支援計画に沿ったサービス提供を行った。引き続き、利用者の行動特性・健康状態・年齢等を考慮し、個々にあった環境づくりを行った。平成29年度は利用者のグループを6つのグループに分けて活動に取り組んだ。グループごとに話し合いを行ない、利用者の希望に応じた外出を企画した。

- A グループは、集団生活が苦手な方、行動障がいがある方に対して、個々にあった支援を提供した。一人ひとりに焦点をあてる事を目的に、グループスーパービジョンもグループ会議に取り入れて、利用者について話し合う機会を設けた。活動として、外食やおやつ購入、散歩を中心に行った。
- B グループは、個々の希望に沿った活動を提供することを目標にした。利用者それぞれの趣味嗜好をアセスメントし、電車外出やカラオケや動物園への外出、パン屋、ラーメン屋等への外食等を企画した。
また、グループ会議で、利用者のストレングスについて話し合う機会を作り、利用者の強みに視点がいくように意識して支援を行った。
- C グループは、活動的に過ごして頂く事を目標にした。利用者の希望を聞きながら、散歩や工場見学、外食、鉄道博物館等、外出の機会を多く設けた。また、グループに作業に参加されている利用者も多くいるため、作業での様子も踏まえて会議で話し合いをした。
- D グループは、健康面で配慮が必要な利用者が多くいるため、施設内でも四季を感じられる活動を考えて企画した。また、散歩や昼食外出といった外に出かける活動も例年より多く行えた。年度後半には会議にグループスーパービジョンも取り入れて、利用者の余暇について話し合いを行う機会も設けた。
- E グループは、自己選択はできるものの、健康面への配慮が必要な方が多くなる中でも、利用者が生活の中で新鮮と感じられる活動を企画した。植物を皆で育てたり、大衆演劇の観覧、バラ園の散策、バスに乗っての外出等を実施した。会議では健康面の配慮も含め、日常生活の中で利用者に合わせて支援をどのように行うかを中心に話し合いをした。
- F グループは、利用者の希望や体調に考慮しながら活動等の企画を行った。年間通して、施設内での活動や外出や外食等、幅広く活動することができた。自分でできる事は行いながら、個々で役割を持てるよう支援して、健康増進を目的に体を動かす機会をどのように作っていくかも会議の中で話し合いをした。

[活動内容]

- ・茶道 …月 1 回、少人数で先生宅にお邪魔し、お点前の練習を行った。
- ・コーラス…第 1 と第 3 木曜に他事業所と合同に行い、音楽指導の先生を迎えリズム遊びを中心に音楽活動を行った。
- ・料理 …希望された方を 2 班に分けて、月 2 回活動した。利用者が職員と一緒にできる部分は調理し、完成したものをおやつとして食べている。
- ・メイク …外出時等にメイクをする事を楽しんで頂いている。また、年度末にはクラブ活動として時間をとり、メイクだけでなく顔パック等も行った。
- ・創作 …毎月、季節の行事にちなんだものを作成し、ホール等に掲示した。
- ・リハビリ…日常生活の中でのリハビリとなる動きを心がけた。

(2) 主な行事の実施状況

月 日	実 施 事 項 等
5月21日	ふれあい福祉まつり
7月20日	プール開放事業
7月21日	納涼祭
8月26日	下赤坂納涼夏祭り
9月8日	日帰り旅行 (東京スカイツリー①)
9月15日	日帰り旅行 (磯部ガーデン)
10月6日	日帰り旅行 (東京スカイツリー②)
10月19日～20日	一泊旅行 (山梨方面)
11月10日	日帰り旅行 (サンリオピューロランド)
11月11日	日産労連 (ミュージカル観劇)
11月17日	日帰り旅行 (特急レッドアロー号)
12月2日～3日	障害者週間の集い
12月8日	Dブロックボーリング大会
12月22日	クリスマス会
1月12日	新年会
1月26日	川越市施設利用者交流会
2月5日	ポップサーカス (モラージュ菖蒲)

(3) 強度行動障がい等への支援

日々の支援の中で、対応が必要になった場合は、その都度職員間で話し合いを持ち、早急に対応できるようにした。また、グループスーパービジョンも行ない、職員全体で利用者について考える機会も持った。強度行動障害基礎研修に4名が参加し、うち2名が実践研修に参加した。

(4) 余暇活動への支援

6つのグループ毎に月の予定日を調整して活動を設定した。また、平成29年度は茶道クラブやコーラスクラブ、料理クラブ等、クラブ活動の他、スノーズレンを試行的に導入した。

(5) 地域との交流

余暇活動支援において、社会福祉協議会からボランティアの派遣をお願いして、行事等に来ていただき、利用者も交流を楽しんだ。他にふれあい福祉祭り、川越市施設連協主催の利用者交流会に参加した。

5 地域社会との共生

(1) 在宅支援事業の実施状況

ア 短期入所事業の実施状況

入所	件 数 (件)	延べ日数 (日)
計	201	2,173

昨年度比 11 件減、49 日増

イ 日中一時支援の実施状況

入所	件数 (件)	延べ日数 (日)
計	73	201

昨年度比 1 件減、13 日減

ウ 現場実習生の受け入れ状況

区分	特別支援学校等 (か所)	人数 (名)	延べ日数 (日)
入所	0	0	0
生活介護	0	0	0

(2) 地域交流・地域資源の活用について

ア ボランティアの受け入れ

受入事業	延べ人数 (名)	受入事業	延べ人数 (名)
余暇支援 (茶道)	12 名	行事 (納涼祭等)	23 名
余暇支援 (コーラス)	24 名		
		合計	59 名

イ 地域行事・文化活動への参加

地域のお祭りである下赤坂納涼夏祭りに参加、その他発達障害福祉協会利用者部会主催のボウリング大会などに参加している。

(3) 施設機能の提供

- ・ 在宅の障害者支援として、日中一時支援、短期入所事業を行なった。
- ・ 2 階多目的ホール菜の花を市民コーラスクラブの練習の場として提供した。

6 効果的・効率的な施設経営

29 年度は人員配置区分 1.7 対 1 で運営している。

調理員については正規職員が 1 名不足している状態で 4 月をスタートしているが、年間を通じて募集を行ったがほとんど応募がない状態であり、採用には結びつかなかった。そのため、管理栄養士、生活支援員も連携し、施設全体で調理員欠員分のフォローを行った。

7 職員研修

新任職員に対して 3 ヶ月間の継続的研修を行った。OJT 担当となった中堅職員も再度業務の確認ができる良い機会となった。その他キャリアパス表に従い、経験や役割に応じた外部研修に参加した。

また、チームごとに高齢者・病弱者等要介護者向けに、摂食・えん下りハビリ、ソフト食など給食に関する研修や、自閉症の利用者への対応を学ぶため、強度行動障害支援者養成研修に中堅の複数の職員が参加した。

スノーブレンに関する外部研修に 3 名が参加した。施設においても、スノーブレン講師による出前講座を開催、多数の職員が参加している。

法人内主任研修に支援、看護、調理の各主任が参加し、グループスーパービジョンを用いた事例検討を行った。

8 その他

(1) 実習生・研修生の受入れ

区 分	実習校等（か所）	人数（名）	延べ日数（日）
実習生	17	42	417